

心理学科

こころについてのエッセイ<7>

同調：なぜ周りの人につられてしまうのか？

みなさんは、まわりの人の言動につられてしまった経験はありませんか？例えば、授業中に先生が挙手を求めたとき、まわりの人たちが手を挙げたので自分もつられて手を挙げたことはないですか？また、友だちとお喋りしていて、自分はそう思っていないくても「うんうん」と同意したことはないでしょうか？このように、まわりの意見や行動に合わせて、自分も同じよう行動することは「同調」といわれ、心理学でも古くから研究されています。そこで、ここでは、同調に関する心理学の研究を紹介したいと思います。



同調の研究をしたアッシュは、次のような実験を行いました。まず、実験参加者を実験室に呼んで問題を出題します。問題は、見本に示した線と同じ長さの線を3つの選択肢の中から選ばせるといった、とても簡単な問題で、自分1人で行ったときは、全ての実験参加者が正解を答えられました。ところが、数人のサクラ(実験協力者)が、わざと間違った答えを言った後に、実験参加者に答えを尋ねたところ、「その答えは間違っているのではないだろうか？」と思いつつも、間違った答えを答える参加者が増加したのです。この理由として、まわりの人に嫌われたくないという気持ちから、多数派の意見に合わせてようとする心理や、自分よりもまわりの人のほうが正しいのではないかと不安になり、とっさに同調してしまうことなどが考えられます。

同調は、私たちの日常生活でも多く見られます。例えば、ある商品について、ネット上で多くの口コミやレビューが書かれているのを見ると、自分も興味を湧いた経験はありませんか？また、流行にも同調の心理が見られ、まわりの多くの人が持っているものは、自分も欲しくなるというのも同調の一例です。



このように、まわりの人につられてしまうことは日常でもよくありますが、まわりを気にしすぎることも問題につながる場合があります。人にどう思われているかを気にしすぎると、気疲れしてしまったり、まわりの人たちに



対しても、同調を強いる気持ちが生まれてしまうこともあります。また、同調が働くことによって、悪い行動と分かっているくても、その行動をしてしまう場合もあります。例えば、「いじめ」にも同調の心理が見られます。「いじめはよくないことだ」ということは、皆が知っていても、まわりの人が見て見ぬふりをしていると、助けるのを躊躇してしまったり、まわりにつら

れて自分も見て見ぬふりをしやすくなってしまうという問題も挙げられます。このように、同調は、自分にもまわりにも問題をもたらすことがあるため、日ごろから、同調を過度に求めないように自分を振り返ってみることも大切なことだといえます。

桂 瑠以 (社会心理学)

